

## 第6回 竹原市総合計画審議会

日時：平成31年2月12日（火）15:00～15:45

場所：竹原市役所 3階 第1・2委員会室

### 1 開会

### 2 報告

#### (1) 基本計画案の前回審議会からの変更点

事務局 （資料1について説明）

会長 前回審議会からの変更点について、御意見をお願いしたい。

委員 資料2, 89ページの取組の方向性③の地域の環境向上の推進のところ、竹原市公衆衛生協議会とあるが、公衆衛生推進協議会ではないか。もう一度確認していただき、修正をお願いしたい。

事務局 確認して対応する。

委員 資料2, 44ページの課題の4つ目に障害という文字を使用しているが、表記について確認が必要である。性的少数者のこともあるため、心身の状態という言葉に変えるのが適切ではないか。

成果指標について、アンケートによる調査が2箇所あったが母数が書かれていないため、公表する際には回答者数を示してはどうか。

事務局 これから印刷発注をして公表する前に、必要なところは対応していきたい。今回の答申については、今回説明した内容での答申をいただくという形をお願いしたい。

#### (2) パブリックコメントの実施状況について

事務局 （資料3について説明）

### 3 答申

会長から市長に対し、答申書を交付

### 4 市長あいさつ

市長 （あいさつ）

### 5 その他（各委員の感想）

## 事務局

### 委員

人口減になること、お金がないこと、災害があったということと言わなかったことがある。人口減になりお金もないということで、竹原市民は、この先竹原市がどのようなまちになるのかを見ないようにしているのではないかと感じている。竹原病院から北側は休耕田も多くあり、まだ災害の痕も多く残っている状態である。昼間は良いが、夜は暗く不安を感じることもある。広島はスポーツが盛んである。子供たちの多くは、スポーツクラブに所属している。竹原市には、ピースクラブというサッカークラブがあり、この監督は外国に行って指導について学び、竹原市に戻り指導をしている。東広島市に在住の広島県サッカー協会の会長が、東広島市には新しい競技場をつくることができないと言っていた。人口芝もしくは芝があり、夜間照明灯がある施設があればいいのだが、東広島市には運動公園があるため、新たな施設つukれないとのことだった。こうした施設が竹原市に一つできないものか。もしできたら多くの人々が利用することがわかっている。新競技場は、人を呼び込む力があり、若い人たちがやって来て明かりが灯れば、イノシシや獣たちを回避でき、その地で農作業に取り組む人々も農作業に喜びを感じ、精を出してくれるのではないか。ぜひ照明と芝のあるサッカーグラウンドを国道2号と国道432号の交差する北部地域につくることを前向きに考えてほしい。知り合いで府中に住んでいるサッカー協会でも有名な方がサッカー場の芝や照明について詳しく知っている。その情報についてはまた後ほど市の方にもお伝えしたい。

### 委員

この基本計画は前期と後期に分かれているが、10年間の基本構想であり非常にスケールの大きい話である。全ての項目を網羅していると思うが、基本的な部分としては、「暮らし誇らし、竹原市。」というキーワードがあるように、市民や市民に関わる企業が今後10年間竹原市で頑張れるというベースになるものである。これからもこのまちと共に頑張っていきたい。

### 委員

これからの10年間の総合計画ということであるが、10年前から現在を見

でも10年後というのはなかなか想像できないものであり、SNSにしても、色々な分野が物凄いスピードで発達・発展している。これから10年後を想像しても、どのような方向に向かっているのかは想像できないが、今回描いたものに関してみんながアンテナを張り、時代についていくことが必要なのではないか。例えば観光の立場で言うと、現在あるものは必要であるが、新たなものも創造しながらつくりあげていくことも必要であると感じている。後世に素晴らしいこのまちを残していくために、私たちが本気になって考えていく出番が来たと考えており、これから何か力になれることがあれば惜しみなく発揮していきたい。

委員 竹原市においては、地域福祉という形で色々な地域の中で活動をされて、絆がかなりあると感じている。小さいまちであるため、昔からの繋がりが強いところで地域での活動も色々とされているが、現在国を挙げて地域づくり・絆づくりを自助・公助・共助という形の中で行っている。行政が全部をすることは難しく、市の財政も緊迫しており、自分たちで助け合いの気運をもっと広めようという状況の中でこの構想ができた。社会福祉協議会の中で培ってきた絆をより深く広く広げていくような形で、皆さんの協力をお願いしながら取り組んでいきたい。

委員 このような会があることすら知らなかった。老人会の中では若いほうだから行っておいでと言われ、参加させていただいた。皆さんの色々な意見を聞き、知らなかったことを知ることができた。サッカー場の話が出たが、陸上競技のほうにも力を入れていただきたい。他所の陸上競技場と比べて、バンブーは劣っている。今月竹原市のロードレース大会があった。小学校の1年生から大人まで670人が参加し、競技を行った。市外の人にも参加していただくと、竹原市のことをもっとよく知ってもらえ、竹原市の良いところを気づいてもらえ、もっと竹原市が発展するのではないかと考えている。老人会の代表として来ているが、協力することが多くある。高齢者は経験も豊富であり、竹原市が発展するように貢献したい。

委員

今後10年間の竹原市を考えるとと言われても、この1年がわからないのに10年先のことが考えられるのかと感じている。昨年は大きな災害があり、計画を立てる中でも復興のことを第一に考えなければならない状況になったのは、想定外のことであった。災害があり、人との繋がりをとても感じることができた。一刻も早く立ち直らなければならないという市民の元気な気持ちも感じることができた。サッカー場の話が合ったが、たしかに国道2号は交通の便が良く、空港も新幹線の東広島駅も近いので、2号線付近には空き地なども多くあるが、人が集まるように整備してもらい、竹原市にもっとたくさんの方が来てもらえるようにすると、市全体に賑わいが出てくるのではないかと感じる。まずは人から注目されるように、竹原市について知ってもらえるように竹原市をアピールして、賑わいや元気のある10年間にしてほしい。計画について色々なお話を聞きながら、10年後に本当に元気な竹原市になるように女性会も力になれることはやっていきたい。

委員

今回の竹原市総合計画策定にあたっては、審議会以前のワークショップの段階から参加させてもらっており、今日を迎えるまで非常に長かったという思いである。長い間を通じて感じたことは、皆さんは竹原市のことを想ってアイデアや意欲を持っており、お互い助け合いたいという気持ちを持っていることもよくわかった。自治会で色々な話をする中で、竹原市のことを想っている人が多くいることが発見できて良かった。今回の総合計画は、市民の下から徐々に上げていくという作り方をしたため、これまでとは少し違う意味合いがあるとも感じた。これまでは、計画は市が中心に行うものと考えていたが、市だけではなく市民も合わせて目指していく方向を確認するためのものであり、将来像に向かったお約束事のような形でまとめられたものだと考えている。実際にまとめられた内容が役に立たないものにならないようにしなければならない。ぜひ市と住民が協力しながら、しっかりとした意思疎通やコミュニケーションを図ってほしい。橋渡しとなるのであれば、自治会としても連合会としても協力していきたい。

会長

これからは基本構想・基本計画を受けて、実施計画をつくる。毎年度見直しをしながら、竹原市の将来像「元気と笑顔が織り成す暮らし誇らし、竹原市。」の実現に向けて具体化していかなければならない。

注意事項を2点ほど申し上げる。1点目は、大変厳しい財政状況である。7月の豪雨災害で顕在化してきている状況である。従来のように色々な提案があるかもしれないが、「あれもこれも」ではなく、今後は「あれかこれか」ということでメリハリをつけながら、厳しい中で着実に皆さんの意見を聞きながら将来都市像の実現を目指していくことが重要である。2点目は、これで終わりではなく、審議会の人は特に媒介者として市と市民を繋ぐ重要な役割があるということである。基本構想・基本計画の考え方や理念を伝えていく必要があり、監視・評価していくモニターの役割もある。3月末で任期は終わるかもしれないが、今後とも評価・点検を率先して市のほうに伝え、市民の意見も媒介者として市のほうに伝えてほしい。今後とも協力をお願いしたい。

(2) その他について

事務局

今後については、2月15日に総合計画の基本構想・基本計画について、平成31年度の予算と合わせて記者発表をする予定である。その後、印刷に取り掛かり、最終的に3月下旬頃に冊子として納品される予定となっている。印刷ができれば、各委員の手元に届けたい。今年の4月からこの総合計画を基に新たな10年間がスタートする。委員の皆様におかれては、今後とも引き続き協力をお願いしたい。

6 閉会

以上